第147号　　平成24年(2012) 8月1日

市議会だより

かかみがはら

発行
各務原市議会
岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001
編集
市議会だより編集委員会

消防署を見学する那加第三小学校４年生の子どもたち

６月定例会

議員定数を２人削減、24人に 2
審議結果 3
委員会審査 4
委員会調査報告 5

市政を問う　一般質問
これからの地域福祉 6
小中学校の安全確保 7
犬山東町線バイパス工事 8
防災ひとづくり講座 9
市民の声、議会素描 10

議員定数を2人削減、24人に
平成25年の任期満了に伴う一般選挙から

平成24年第2回定例会（6月定例会）を6月4日から6月25日までの22日間の会期で開催しました。

今期定例会に市長から提出された議案は、平成24年度一般会計補正予算をはじめとする23案件で、21案件を原案のとおり可決・同意・承認し、工事請負契約の締結の2案件を賛成少数で否決しました。

また、議員から「市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例」が提出され、賛成多数で可決しました。

市議会議員の定数を定める条例の一部改正

各務原市議会では、議会制度の点検、改革を行う必要性があるとの共通認識のもと、議会運営委員会において議会のあり方の検討を行ってきました。

その中で、各務原市にふさわしい議員定数についての検証を行ってきました。

各会派の意見を集約し、協議を行った結果、定数を2人削減すべきとの意見が多数あり、賛成する会派（政和クラブ、民主クラブ、市議会公明党）の代表により、今回の条例改正案が提出されました。

この条例改正により、任期満了（平成25年3月3日）に伴う次の一般選挙から、議員定数を26人から24人に削減することが決定しました。

工事請負契約の締結2案件を否決

各務小学校屋内運動場改築工事（建築）

公表している工事予定価格に対して99・86％の高率での落札で、しかも応札した4共同企業体は、公表している工事予定価格からわずか0・14％の中での競争となっています。

高機能消防指令センター整備工事

一般競争入札を行ったが、1者は辞退で、1者のみの応札で落札としています。

○否決した主な理由

工事予定価格の事前公表は、工事予定価格が目安となって競争が制限され、落札価格が高止まりになり、業者の見積もり努力を損なわせるなどの弊害があるとの指摘があること。

できるだけ広い範囲で競争し、公正性と経済性を確保するという一般競争入札制度のメリットを反映していない状況であること。

また、積算した工事予定価格については、コスト縮減に業界の協力をいただいているとの答弁もあったが、市場価格と懸け離れていること。

これらの状況から、今一度点検し、透明性、公正な競争性の確保など入札制度を改善し、入札をやり直すよう求めました。

平成24年度一般会計補正予算（第1号・2号）

当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算それぞれに2億8989万2千円を追加し、補正後の予算総額は435億9989万2千円となりました。

歳入の主なもの

○国庫支出金
　4447万7千円
○繰越金
　1億7239万円
○市債
　5690万円

歳出の主なもの

○予防接種事業費
　9月1日より小児麻痺の予防接種が、生ポリオワクチンから単抗原不活化ポリオワクチンに切り替わることに対応するものです。3547万5千円
○稲羽中学校の校舎耐震補強事業費
　1億3708万2千円
○体育施設整備事業費
　破損した市民プール屋内温水プールの天井などの改修工事を行うものです。5255万3千円

市民広場設置条例の一部改正

鵜沼朝日町1丁目に新設する各務原市空の森運動公園を市民広場として定めるものです。

空の森運動公園（鵜沼朝日町）

審議結果（6月定例会）

○市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・賛成多数
○教育委員会委員の任命（梶浦玲子氏）…… 原案同意・全会一致
○固定資産評価員の選任（五島浩利氏）…… 原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（田中八宏氏）…… 原案同意・全会一致
○専決処分の承認（23年度一般会計補正予算（第7号））…… 原案承認・全会一致
○専決処分の承認（市税条例の一部を改正する条例）…… 原案承認・賛成多数
○専決処分の承認（国民健康保険条例の一部を改正する条例）…… 原案承認・全会一致
○24年度一般会計補正予算（第1号）…… 原案可決・全会一致
○24年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）…… 原案可決・全会一致
○市税条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・全会一致
○常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・全会一致
○火災予防条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・全会一致
○市民広場設置条例の一部を改正する条例 …… 原案可決・全会一致
○工事請負契約の締結（各務原大橋橋面工工事）…… 原案同意・賛成多数
○財産の取得（救助工作車（Ⅱ型））…… 原案可決・全会一致
○市道路線の認定（市道鵜1360号線）…… 原案可決・全会一致
○市道路線の認定（市道鵜1342号線ほか3路線）…… 原案可決・全会一致
○市道路線の認定（市道鵜1361号線）…… 原案可決・全会一致
○市道路線の廃止及び認定（市道鵜300号線ほか17路線）…… 原案可決・全会一致
○市道路線の廃止及び認定（市道川2355号線）…… 原案可決・全会一致
○市道路線の廃止及び認定（市道川3314号線）…… 原案可決・全会一致
○工事請負契約の締結（各務小学校屋内運動場改築工事（建築））…… 原案否決・賛成少数
○工事請負契約の締結（高機能消防指令センター整備工事）…… 原案否決・賛成少数
○「子ども・子育て新システム」は撤回し、安心して子育てができる制度の実現を求める請願 …… 不採択・賛成少数
○24年度一般会計補正予算（第2号）…… 原案可決・全会一致
○基地対策予算の増額等を求める意見書 …… 原案可決・全会一致
○議員派遣の件（市議会だより編集に関する調査）…… 原案可決・全会一致
○職員の綱紀粛正及び服務規律の徹底を求める決議 …… 原案可決・賛成多数

可決した決議

市職員による最近の不祥事に対し、再発防止と市民への信頼回復などを求め、議員から決議が提出され、賛成多数で可決しました。

各務原市職員の綱紀粛正及び服務規律の徹底を求める決議

職員は、市民の信託に基づく全体の奉仕者として、誠実かつ公正に職務を遂行しなければならない。しかし、最近の元職員による公金横領事件をはじめ、職員による不祥事が発生している事実は、各務原市への信頼を著しく損なうものである。

よって、市長並びに職員は、これらの事件の重大さを真摯に受け止め、このような事件の再発防止を図るとともに、綱紀粛正及び服務規律の徹底を図り、市民の信頼を回復すべく格段の努力をするよう強く求める。

平成24年6月25日

委員会審査

6月19日、20日の2日間で常任委員会を開催し、審査を行いました。
各常任委員会での主な質疑の内容は次のとおりです。

総務常任委員会

各務原大橋橋面工工事請負契約の締結

▼質疑　工事を請け負う特定建設工事共同企業体の構成員を4者とした理由は。

▽答　難易度の高い工事の中に、市内業者でも施工できる工種があり、市内業者の育成を図るため、構成員として参加できるように大手企業を含む4者とした。

建設が進む各務原大橋（川島小網町）

各務小学校屋内運動場改築工事（建築）請負契約の締結

▼質疑　一般競争入札の予定価格の事前公表は、どのようなメリットがあるのか。

▽答　入札制度の公平性、透明性を確保する観点から、事前に予定価格を公表している。

▼質疑　予定価格に対する落札率の割合は99・86％で、わずか0・14％の間で4者が競争する結果となったが、公平、公正な競争といえるのか。

▽答　市場価格や実勢価格を参考にコストを縮減した積算で予定価格を算出しているため、入札率が高くなるのはやむを得ない。

経済教育常任委員会報告

平成24年度一般会計補正予算（所管分）

▼質疑　ライフデザインセンターに購入する軽量パネルの用途は。

▽答　市内4カ所のライフデザインセンターにそれぞれ設置し、クラブサークルなどに貸し出す。

▼質疑　市民プールは修繕工事のため、3カ月間使用できないが、指定管理者との契約はどうなるのか。

▽答　指定管理費に影響が出るか㈱愛知スイミングと調整している。

建設水道常任委員会

市民広場設置条例の一部改正

▼質疑　空の森運動公園は、どのようなスポーツができるのか。

▽答　クロッケーゴルフやゲートボールなどができる。多目的広場であるが、スパイクシューズの使用は禁止している。

平成24年度一般会計補正予算（所管分）

▼質疑　釜石市に被災地支援で職員を3カ月派遣するとのことだが、期間は派遣先からの要請か。

▽答　市長会を通じて、昨年度までの派遣は1人1カ月であったが、今年度は3カ月の要請があった。すでに4月から6月まで1人派遣しているが、引き続き7月から9月まで1人派遣するものである。

民生消防常任委員会

高機能消防指令センター整備工事請負契約の締結

▼質疑　1者のみの入札であるが、メーカーを指定したのか。

▽答　入札公告に工事概要は指定したが、メーカーの指定はしていない。

財産の取得（救助工作車（Ⅱ型））

▼質疑　指名競争入札で行った理由は。

▽答　消防車両は特殊車両であるため、専門的な装備を取り付けることができる業者を指名し、入札を行った。

救助工作車

平成24年度一般会計補正予算（所管分）

▼質疑　家庭児童相談室運営費の内容は。

▽答　赤ちゃん訪問事業の中で、虐待防止のシンボルマークのオレンジリボンを訪問スタッフのバックに印刷し、購入するものである。

▼質疑　小児麻痺の予防接種はワクチンの変更に伴い、集団接種から個別接種となるが、どの医療機関でも接種できるのか。

▽答　医療機関に希望を募り、その医療機関で接種していただくよう周知していく。

委員会調査報告（市内での視察）

民生消防常任委員会
〈期間〉4月11日

○小型動力消防ポンプ付水槽車

平成24年度から西部方面消防署に導入された小型動力消防ポンプ付水槽車を視察した。

今までのタンク車の7台分に相当する10トンの積載水量を持ち、最長30分ほど放水が可能で、走る貯水槽として消火活動での活躍が期待される。

また、災害時などには、給水車としても使用が可能であり、5000人分の飲料水を運ぶことができる。

小型動力消防ポンプ付水槽車

そのほか、平成23年度に民営化した鵜沼中保育所と平成23年11月に開所した特別養護老人ホーム「オーク」を視察した。

建設水道常任委員会
〈期間〉4月12日

○新三井配水池

平成25年に完成予定の新三井配水池を視察した。

昭和38年に建設された現在の三井配水池（容量1300㎥）にかわり新しく建設される新三井配水池は、容量が4400㎥となり、今より随分大きくなる。

新三井配水池は市の西部にも給水を開始し、現在はポンプで加圧して配水している川島地区にも各務原大橋を経由して自然流下で各家庭に給水する予定である。

同施設の位置する三井山は強固な岩盤であるため、耐震性も問題はないと考えられる。また、三井山公園の中にあるため、地下式配水池とし、上部を土で埋め戻し、周りに植栽をするなど景観にも十分配慮した造りとなる予定である。

建設中の新三井配水池

そのほか、都築（つづき）紡績跡地で行われている鵜沼駅東部第二地区都市再生整備事業などの進捗状況を視察した。

委員会調査報告（他市への視察）

議会運営委員会
〈期間〉5月9日～10日

○東京都三鷹（みたか）市

議長、副議長の任期は、各務原市も含めて多くの市が1年としているが、同市では議会改革の一環として、平成19年の改選より2年としている。

その他、政務調査費や議長交際費の積極的な公開を行うなど、議会改革の先進的な取り組みを視察した。

○静岡県島田市

議会の責務、議会と議員の活動原則、市民に開かれた議会のあり方などを定めることを目的として、平成19年3月に議会基本条例を制定しており、その制定の作業や制定後の活動内容について視察した。

担当より説明を受ける委員（三鷹市）

民生消防常任委員会
〈期間〉5月21日～23日

○那覇市

高機能消防指令システム

固定電話だけでなく、携帯電話からの119番通報にもいち早く対応し、瞬時に発信地点を特定するもので、各務原市においても平成24年度に導入が予定されている。

視察においては、実際の消防・救急の運用状況などを視察した。

○糸満市

福祉プラザ「すこやか館」

保護者が地域の中で安心して子育てができるように、さまざまな支援事業を実施している。

市とNPOが密接に連携し、それぞれのノウハウを生かした運営を行っている。

○浦添市

医療情報提供事業

市役所の一角に設置されたメディカルインフォメーションセンターでの医療相談事業や医療広報活動などの取り組みを視察した。

市政を問う 一般質問

6月14日、15日の2日間、一般質問を行いました。質問をした議員は次のとおりです。（発言順）

梅田利昭、吉岡健、高島貴美子、杉山元則、池戸一成、三和由紀、三丸文也、永治明子、横山富士雄、波多野こうめ、水野岳男

これからの地域福祉

高齢者いきいき生活サポート事業

▼問　新たに開始する高齢者いきいき生活サポート事業の目的と内容は。

▽答　要援護高齢者の生活支援と意欲ある元気な高齢者の社会参加と生きがいづくりを目的にしている。

　要援護高齢者台帳の登録者を対象に、ごみ出しや家具の移動などちょっとした日常作業を元気な高齢者がワンコインで提供するものである。

　シルバー人材センターで現在45人のサポート会員登録があり、7月からのスタートに向け、民生委員・児童委員の協力のもと利用者登録を受け付けている。

▼問　孤立死を防ぐための取り組みは。

▽答　高齢者いきいき生活サポート事業をはじめ、高齢者を普段から地域で見守る体制を強化するとともに、高齢者に万一の異変があったときなどの緊急時に備える体制づくりを推進していく。

　自身の成長過程における自立心の芽生えを大切にするため、現在のところ考えていない。

　また、保護者交流会などでニーズを確認しているが、平日の時間延長、土・日曜日の保育の要望はない。

　今後も保護者の希望やニーズを把握していく。

ニーズに応える学童保育を

▼問　学童保育で小学校4年生以上の受け入れや平日午後6時以降の時間延長、土・日曜日の保育拡大に対する考えは。

▽答　学童保育の対象年齢の引き上げは、子ども

学童保育の様子

▼問　小学校の教室不足で十分な保育が困難な学童保育もあるが、改善策は。

▽答　教室に余裕のない学校もあるため、各学校の実情に合わせて教室の共用も含め工夫していく。

生活保護制度

▼問　生活保護の現状は。

▽答　平成24年4月現在の生活保護世帯数は463世帯、604人となっている。

　平成20年のリーマンショックで急増していたが、ここ2年間は高止まり状態である。

▼問　生活保護受給者のパチンコなどのギャンブルや飲み歩きを禁止することはできないか。

▽答　生活保護を開始する時やケースワーカーの普段からの生活指導の中で、支出の制約を図り、生活の維持、向上に努めるよう指導している。

　ギャンブルなどで生活状況が改善されない場合には、指導・指示を行っており、これに従わない場合は、保護の停止や廃止になることもある。

東海中央病院の医療体制

▼問　東海中央病院の産婦人科の分娩再開は。

▽答　最新の分娩室が設けられているが、現時点では分娩再開のめどは立っていない。

　引き続き病院長を中心に、大学病院などに働きかけ、小児科医・産科医の確保に努力している。

▼問　がん患者や家族への緩和ケア充実のために、がん体験者がこころのサポートをするピアサポーターなどの育成が必要では。

▽答　東海中央病院の緩和ケア病棟は開設後、常に満床である。

　ピアサポーター育成の重要性は十分認識しており、必要に応じて協力していく。

小中学校の安全確保

通学路の安全点検、避難訓練を実施

▼問　小中学校の通学路の安全対策は。

▽答　小中学校では、年度始めに教職員が通学路を児童生徒と一緒に歩いたり、ＰＴＡ役員が通学路の安全点検をし、危険個所を認識し、安全対策を講じている。

▼問　学校の危機管理マニュアルの作成状況は。

▽答　東日本大震災を契機に危機管理マニュアルの見直しを各学校に指示するとともに、「東海・東南海地震に対する学校の備えと対応会議」を開催し、非常時の対応をあらゆる側面から協議した。

この会議には、自治会連合会をはじめＰＴＡ連合会や小中校長会、防災担当職員などが参加し、非常時における安全確保・避難方法などの決定や一時的な避難場所の選定、マップ作成などを行った。

通学の様子（おがせ街道）

▼問　小中学校ではどのような避難訓練を行っているのか。

▽答　小学校で年３回以上、中学校では年２回以上の避難訓練を実施している。

訓練内容は、主に地震と火災が同時発生した場合の訓練や不審者対応訓練、保護者引き渡し訓練などを行っている。

そのほかに煙体験や消火器、１１９番通報の実演のほか、消火設備や携帯ラジオ、懐中電灯、救急医薬品、住所録などの一斉点検も実施している。

不審者対応訓練（那加中学校）

▼問　登下校中の災害発生時の対応は。

▽答　地震発生時の危険回避行動や揺れが収まった後の一時的な避難場所への避難の方法など、適切に対応できるよう指導している。

▼問　災害発生後の児童生徒の保護者への引き渡し方法は。

▽答　原則、保護者に直接引き渡すこととしている。小学校では年度始めに引き渡し方法を確認し、参観日を利用して引き渡し訓練を実施している。

給食センターの安全管理

▼問　給食センターで使用する簡易水道水に異物を発見した際に、給食調理に問題はないと判断した基準は何か。

▽答　学校保健安全法に基づき、毎日、調理前と調理中に使用水を検査しているが問題はなかった。

また、さびか水あかと思われる少量の異物が排出されたため、しばらくの間、流水し、その後に異物が含まれていないことを確認した。

今回の対応は、すべて市学校給食衛生管理マニュアルに基づき実施しており、問題はない。

▼問　暑さ対策として、小中学校にミストシャワーを設置してはどうか。

▽答　学校の規模・費用・効果などを含め、今後検討していく。

▼問　子どもたちにスポーツ障害の知識と予防方法をどのように指導しているのか。

▽答　小学校では、体育の時間を中心にウォームアップやクールダウンの意味を理解させ、児童の発達段階に合った運動を指導している。

中学校では、スポーツ障害と予防方法の体育理論を学び、実技指導では、体育理論と関連付けて指導している。

今後も子どもたちが、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるようにスポーツ障害予防教育を充実していく。

▼問　小中学校の夏休みなどの期間設定についての市の考えは。

▽答　夏休みは、家族の一員として普段できない手伝いや仕事に取り組んだり、復習や弱点補強などに絶好の機会である。

また、日常の学校生活では体験できないことに挑戦できる期間でもあるため、市独自の期間設定は考えていない。

犬山東町線バイパス工事を着手

第2期以降の整備は県の施行で

▼問　犬山東町線バイパスの開通による諸課題に対する対策は。

▽答　騒音対策は、走行音を減らす舗装や街路樹を植えることで騒音の緩和を図っていく。

地域内の生活道路は、周辺幹線道路への接続と緊急車両の通行性を高めるために必要な路線を拡幅する。

自治会の再編成は、地元の意見を聞いて検討していく。

バイパスの整備にあわせて、排水対策も行い、早期に対応可能な場所については先行して実施していく。

犬山東町線の渋滞

▼問　県は予定どおり第2期以降の工事を実施するのか。

▽答　現在、市は第1期区間の工事認可手続きを県に申請中であり、認可後正式に事業着手する。

その後、第2期以降の整備は県の施行により着手するものと確信している。

今夏の節電対策

▼問　夏の市役所の節電の取り組みは。

▽答　本庁舎窓ガラスに断熱フィルムを貼るなど、新たな夏季節電対策を講じている。

また、北清掃センター、八木山小学校、那加中学校への太陽光発電システムの設置、街路や庁舎内照明の一部をLED化するなど、今後も「創エネ」「省エネ」「節電」の取り組みを推進していく。

樹木の管理

▼問　樹木により交通障害となるところが見受けられるが対策は。

▽答　公共施設緑化マニュアルに従い、車両や歩行者の通行空間を確保するよう適正な樹木の管理に努めている。

▼問　落ち葉清掃についての市の考えは。

▽答　落ち葉の清掃は、住民の協力を得ながら、年3回程度実施している。

今後も落ち葉による側溝詰まりが生じないように随時点検し、必要に応じて側溝清掃を実施していく。

▼問　樹木の成長により、電線や電柱がすっぽり取り囲まれているところがあるが、その対応は。

▽答　電柱などの占有者である電気通信事業者の責任で、保護カバーの設置や樹木の剪定など必要な措置を講じて安全管理に努めるよう指導している。

公共インフラの整備

▼問　老朽化が進む橋梁や上下水道などの公共インフラの現状と維持・更新の計画は。

▽答　橋梁は、橋梁長寿命化計画に基づく対象橋梁40橋のうち、今後10年以内に修繕が必要なものは23橋あり、平成23年度より順次、修繕に着手している。

上水道は、管路の耐用年数を考慮し、年に管路総延長の2%程度の割合で、老朽管を耐震管に更新している。

下水道は、供用開始から約20年と比較的新しいが、昭和40年代に造成された団地から移管を受けた下水道施設を来年度から更新していく予定である。

▼問　地域の防災拠点である公共施設の耐震化や防災機能の強化はどう進めていくのか。

▽答　防災機能の強化、耐震化も考慮しながら施設改修の時期などを整理した公共施設長寿命化計画を策定しており、その具現化に向けて実施計画に盛り込んでいく。

▼問　市営住宅の耐震診断状況と耐震化への考えは。

▽答　すでに実施した市営住宅の耐震診断によると、全棟が耐震補強の必要な建物と診断されている。

この結果を踏まえ、順次、耐震化を進めていく。

修繕が予定されている那加橋

防災ひとづくり講座

地域で活動する防災リーダーを育成

▼問　昨年度からスタートした防災ひとづくり講座の状況とその後の活動状況は。

▽答　防災リーダーの育成を目的に延べ6日間の日程で講座を開催し、修了した25人の方が市防災推進員となった。

今後は、習得した防災知識や技術を生かし、地域でのさまざまな活動を期待している。

今年6月には、受講を修了した有志が集い、「各務原防災推進ネットワーク」が発足した。

このネットワークは、主に行政機関との連携や地域防災力強化への協力、災害発生時における支援などを目的としている。

今後は、自主防災訓練の支援活動や防災意識向上の啓発活動などを主体的・継続的に推進するものと考えている。

防災ひとづくり講座

▼問　防災ひとづくり講座の今年度の内容は。

▽答　10月から12月にかけて開催を予定している。

市民や受講者の意見などを参考に、カリキュラムの一部見直しや日程を4日間に凝縮するなど、多くの方が受講しやすいように改善した。

▼問　一次避難所と二次避難所の違いは。

▽答　一次避難所は災害時に小学校区を基本に市内18の小中学校に開設するもので、防災備蓄倉庫を設置し、災害時には市の窓口となる現地連絡所を開設する。

二次避難所は、一次避難所だけで対応できない大規模災害の時に開設するもので、今年度から新たに二次避難所である小中学校7校に備蓄食料や飲料水を配備している。

水防対策

▼問　木曽川などの河川で、危険水位に達した場合に避難する基準と避難場所は。

▽答　避難勧告の発令は、市内各所の雨量計や木曽川の水位観測データ、職員による目視、避難路の状況、気象状況などを考慮し、総合的に判断する。避難勧告や避難場所の伝達は、災害情報スピーカーや広報車、携帯メールなどで行う。

避難場所は、その状況下で最も安全に避難できる施設を指定する。

韓国春川（チュンチョン）市議会を交流訪問

期間　5月15日～17日

訪問議員　神谷卓男（団長）、古田澄信、川瀬勝秀、高島貴美子、浅野健司

今回の訪問は、平成22年に春川市議会から議員交流再開の申し入れがあり、交流を再開したもので、平成18年以来の春川市議会への訪問です。

意見交換会では、市や民間交流の再開に関して春川市の状況を聞いたところ、「国家間の領土問題は、将来的に解決できる問題だと確信している。両市間の交流再開は、春川市長が判断するものであるが、春川市議会も再開に向け努力をしていきたい」との状況説明がありました。

春川市議会議員との意見交換

春川市議会の議会棟

また、議員交流に関しては、「日本の先進的な行政施策に関心が高く、今までどおりの交流方法で各務原市議会に訪問し、交流と勉強をしたい」との春川市議会からの意向が示されました。

その他、議会の運営方法や選挙制度の違いなどについて意見交換を行いました。

市民の声 こんな街がいいな！
～わたしたちの夢、願い～

支え合うまち

鵜沼三ツ池町
長岡 範章さん

私は民生委員・児童委員の一員です。活動は台帳に基づいて一人暮らしのお年寄りや高齢者宅を訪問します。しかし、活動にも自ずと限界があり地域住民と協力し孤立孤独死を防ぎ支え合うことが望ましいと思います。

児童を見守る取り組みも大切で、東海地震がすぐに起きても不思議ではない状況で学校の生徒を安全に確保し耐震強化は急務です。

児童虐待や不審者から事件事故を防ぎ見守る必要があり、高齢者や児童を見守り誰もが安全安心に暮らすには地域住民の支え合いが大切です。

遊具の多いまち

鵜沼南町
西尾真由美さん

公園が多く緑豊かな各務原は素敵ですが、遊具を増やしてほしいと感じます。子どもたちはもちろん大人も一緒に体を動かして遊びながら健康増進できる大型の遊具があるとうれしいです。

また、地域の小学生や中学生が子ども館などに安心して集い、遊び、宿題ができるような場を提供いただけると親として安心できます。

現在、子ども館は幼稚園などに行く前のお子さんがメインで利用しているので、夕方からすみ分けできるような場があると良いなぁと感じています。

子育てのしやすいまち

蘇原野口町
楢谷 清美さん

さまざまな事情により、共働きの家庭が多くなっています。突発的な子どもの病気など、どうしても休みを取って看病できない親に代わり、子どもを預かってもらえる病児保育は大変助かります。

市内にも今年やっと病児保育園ができ、それまで病後時保育しかなかった各務原市も少しは子育てのしやすいまちに近づいたのではと思います。

次世代を担う大切な子どもたちを育てやすいまちにしていきましょう。

市議会を傍聴しましょう

次の定例会は、
8月29日に開会予定です。
会議当日、午前9時30分から
市役所6階で受付しています。
詳しくは、議会事務局総務課へ

議会素描

▼梅雨の季節のせいか、東日本大震災の教訓か、6月議会は防災に関する質問が目立った。

▼不祥事や些細なミスから市民の信頼は簡単に損ねてしまう。21世紀型市役所と言う前に公人としての自覚と、その崇高な職務へのやりがいをすべての職員に持ってほしい。

▼子どもたちが楽しみにしている給食。今後は調理ストップがないよう、日ごろから気を付けていただきたい。

▼今の時代をより良くするために何が必要かを考え行動したい。子どもたちの笑顔を頭に浮かべて、子どもたちの豊かな未来を築きたい。

▼今年も節電の夏がやってくる。世の中には暑さ対策グッズがいっぱい。この発想と努力で暑い夏を乗り切りたい。

市議会だより編集委員会

委員長　足立孝夫
副委員長　池戸一成
委員　水野岳男
　　川嶋一生
　　杉山元則
　　高島貴美子

VEGETABLE OIL INK
環境保護のため植物インキを使用しています。